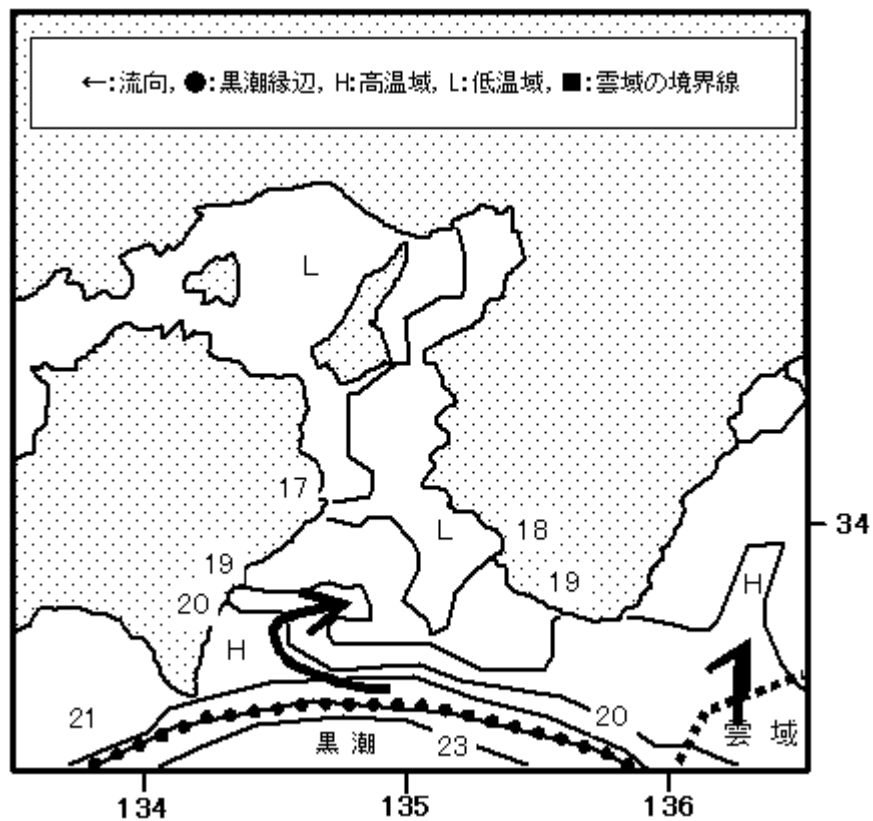


1. 海況の経過

1) 黒潮

5/11 発行海上保安庁海洋情報部海洋速報によると室戸岬沖から潮岬沖の黒潮は著しく接岸している。黒潮本流の表面水温は24℃前後。



2) 海況

上に和歌山県の人工衛星画像海況速報(H19.5.13~14)を示した。

表面水温は播磨灘が16℃台、紀伊水道内部が16~17℃、外域が17~20℃である。

室戸岬沖で黒潮が接岸していることにより、20℃台の黒潮系暖水が紀伊水道外域中央部に流入している。

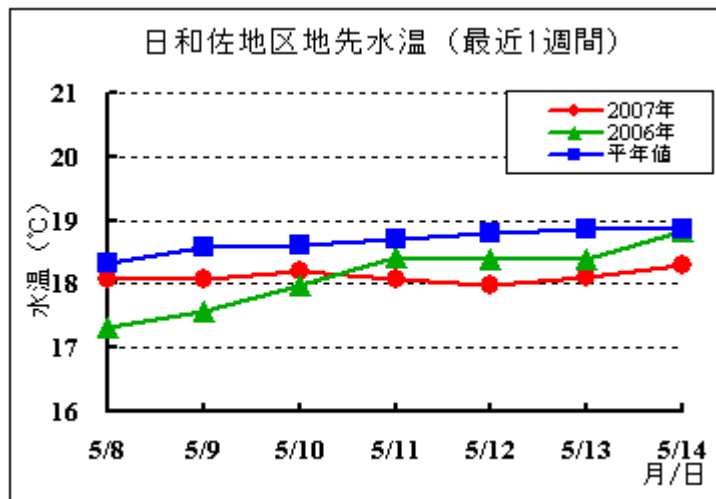
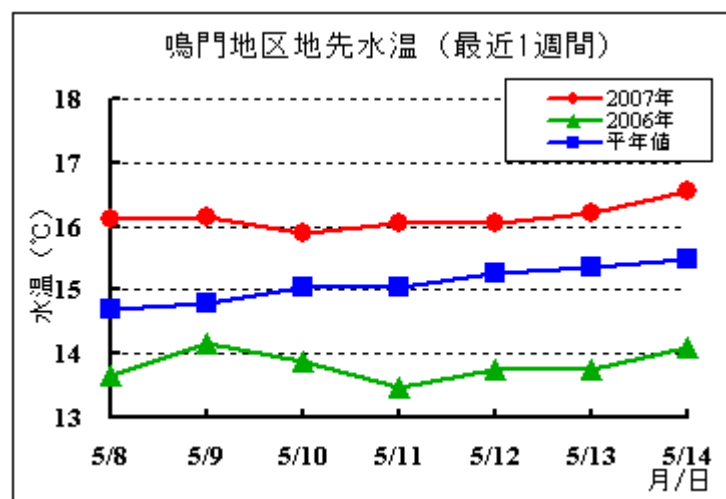
漁業調査船「とくしま」が5月8日に行った播磨灘海区の海洋観測結果では、水温は表層は「高め」の17.1℃、10~30m層は「やや高め」で、10m層で14.8℃、20m層で14.2℃、30m層で13.8℃であった。

播磨灘海区観測結果 (観測日 2007/5/8)

水温	水深				塩分	水深			
	表層	10m	20m	30m		表層	10m	20m	30m
今年値	17.1	14.8	14.2	13.8	今年値	32.6	32.7	32.8	32.8
平年偏差	2.0	0.7	0.6	0.7	平年偏差	0.3	0.3	0.3	0.3
前年偏差	3.9	2.2	2.1	1.8	前年偏差	0.2	0.2	0.2	0.2

3) 地先水温

最近1週間の地先水温は、鳴門地区は「やや高め」の15.9~16.6℃で、日和佐地区が「やや低め」~「平年並み」の18.0~18.3℃で、牟岐地区は「やや低め」~「平年並み」の17.6~18.7℃で推移した。



## 2. 漁況の経過

引き続き海部沿岸海区の下灘でアカクラゲ、ミズクラゲが大量に出現している。  
播磨灘海区では先週後半に低気圧が県内を通過した後、クラゲの出現量が減少した。

**小型定置網:**海部沿岸で、マメ主体にマアジが21.6トン(1日1隻あたり267kg)、キビナゴが0.8トン(同31kg)、水揚げされた。マメアジについては近年になく多い。

**大型定置網:**海部沿岸で、マルソウダが3.5トン(同389kg)、大主体にアオリイカが1.3トン(同148kg)、大主体にイサキが0.9トン(同101kg)、サンマが0.5トン(同53kg)水揚げされた。

**釣り:**海部沿岸で、大主体にマアジが0.5トン(同9kg)、海部沖合で中主体にカツオが2.6トン(同883kg)水揚げされた。カツオ漁は低調に推移している。

**パッチ網:**紀伊水道で、シラスが21.2トン(同210kg)水揚げされた。

漁業種類別漁獲量集計表(抜粋)5月2日～5月9日 県下8漁協からの聞き取り

漁業種類	漁獲海域	魚種	延べ出漁隻数	漁獲量(kg)	1日1隻当たり漁獲量(kg)	銘柄・その他
小型定置網	海部沿岸	マアジ	81	21,634	267	マメ主体
		キビナゴ	27	827	31	
マルソウダ		9	3,505	389		
大型定置網		アオリイカ	9	1,334	148	大主体
イサキ		9	909	101	大主体	
サンマ		9	475	53		
釣り		マアジ	57	522	9	大主体
		海部沖合	カツオ	3	2,649	883
パッチ網		紀伊水道	シラス	101	21,175	210

### その他県内漁模様(5/14 聞き取り)

**モジャコ漁:**流れ藻は多いがモジャコは少ない模様。サイズは小主体。

**底曳き網:**紀伊水道でハモ、タチウオ、ヌキエビ主体に水揚げされている。

**タイ網:**播磨灘でマダイの豊漁が続いている。

**サワラ流し刺網:**播磨灘で低調に推移している。

### 週間予報:

黒潮の動きは流動的である。室戸岬、潮岬ともに「接岸」～「やや離岸」で推移する見込み。  
地先水温は、鳴門地先で「やや高め」の16～17℃、日和佐地先で「やや低め」の18～19℃で推移する見込み。

### 他県情報:

和歌山県のひき縄でカツオが22.9トン(1日1隻あたり34kg)、釣りでイサキが2.5トン(同52kg)、パッチ網でシラスが27.5トン(同687kg)水揚げされた。  
高知県芸東地域の大型定置網で、メジロが56.6トン、マアジが38.2トン、さば類が7.0トン、マイワシ23.5トン、ウルメイワシ7.2トン、カタクチイワシが1.0トン水揚げされた。

\*水温偏差の目安

平年並み:±0.49以下, やや高め(やや低め):±0.50～1.49, 高め(低め):±1.50～2.49, かなり高め(かなり低め):±2.50以上